



2025年9月4日(木)
余市養護学校しりべし学園分校
文責：研究部 寺門
第3号

いよいよ長い長い2学期が始まりました。これまでの研修の内容も参考にしながら授業作りについて考えていたら良いですね。本号では、7・8月に行われた研修等の様子についてお伝えします。

夏休み教材展 2025

先生方の専門性の向上、若手の先生への研修を目的に教材展を行いました。先生方のこれまでの経験で作成・使用してきた教材物含め、たくさんの手作り教材が並びました。目の前の児童生徒にすぐに使用できるものとは限りませんが、アイデアや発想はとても参考になったのではないのでしょうか。初任・新任の先生方の感想を一部お伝えします。



- 「朝の会・帰りの会の進行表」は、イラストがシンプルで分かりやすく、発語のない児童生徒とコミュニケーションを取りながら進められると思いました。(野村 T)
- 「運賃箱」は、実際にバスや JR に乗る前に練習ができて良いと思いました。(篠崎 T)
- 「2種類のペットボトルとストロー」は、長い短いの概念を体験的に学ぶことができて良いと思いました。(瀧上 T)
- 「ひらがな洗濯ばさみ」は、洗濯ばさみの数を増減することで簡単に難易度を変えられる点が便利だと思いました。(久米 T)

ICT 研修

荻野教諭による ICT 研修が行われました。

導入には、Kahoot のクイズで研修が始まりました。「やった!」「くやしい」など、参加者みんなが主体的に楽しく取り組みました。その後、荻野教諭が Canva や Keynote、Google workspace を普段どのような場面で使用しているのか、具体的な事例を聞きました。質疑応答では、年配の教師が ICT を活用しやすい方法について一緒に考えました。AI ジェネレーターを使ったり、資料を持っている教師にテンプレートをももらったりして作成するなどの解決案が出されました。まずは先生方が使ってみる、操作してみることが大切な一歩なのだと思います。2学期以降の授業に活用できたらいいですね。



荻野教諭と
楽しくクイズをする先生方



特セン訪問研修

特セン訪問研修において荒井研究員より「知的障がいをもつ児童生徒の特性と教育的対応の基本」について研修を行いました。

「知的障がいの特性」や「社会モデルによる実態把握」について、実体験を交えながらお話いただきました。

知的障がいをもつ児童生徒は、言われたことを繰り返し行うことでスキルを身につけることができますが、短期的なことは定着しにくいという特性があることを指摘していました。この特性に対し、「学ぶ意欲」の大切さをお話してくださいました。子どもの実態把握では、教師側が適切でないと思う行動の背景要因を理解することが大切であることを教わりました。気になる行動を制止、抑制するのではなく背景要因に目を向けて社会モデルで指導・支援を考えることが大切だと思いました。

児童生徒のもつ特性を改善する指導を行うことだけでなく、知的障がいの特性を理解し、児童生徒が主体的に意欲をもって学習に向かえる環境を整えることが大切であることを改めて学びました。

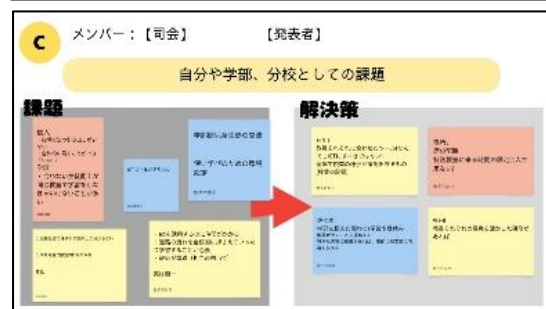
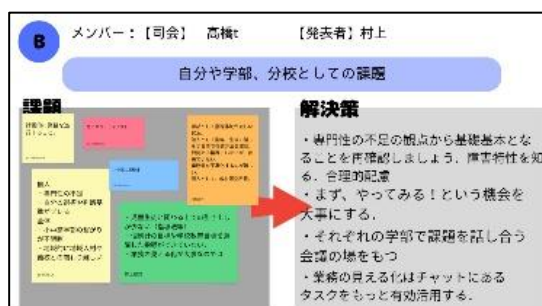
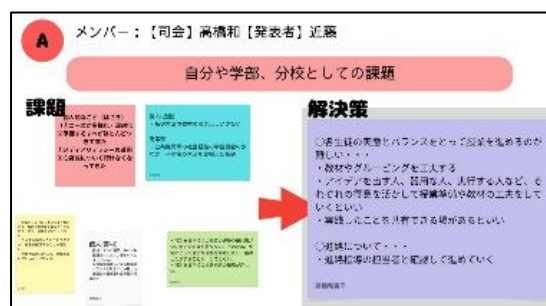


グループワークをする先生方



校内研修

今回の研修では、自分や学部、分校としての課題について考え、悩みや改善策を共有しました。課題としては、どのように実態差がある児童生徒に授業を行うか、指導方法の引き出しが少ないなどがあげられました。解決策では、それぞれの得意を活かして授業準備や教材の工夫を行うこと、学部を超えて情報を共有したり交流したりすることなどがあげられました。



今後の予定

10月1日・11月26日	ZOOM研修
10月29日	校内研修

